

情報公開文書

研究課題名	化学療法または放射線療法後に発症した PNH 型血球陽性造血不全における臨床経過の検討
研究体制	<input checked="" type="checkbox"/> 長野赤十字病院が責任研究機関となる <input type="checkbox"/> 他施設が責任研究機関となる共同研究 (責任研究機関：金沢大学付属病院 血液呼吸器内科)
研究責任者	責任研究機関 所属 金沢大学付属病院 血液呼吸器内科 氏名 中尾 眞二 当 院 所属 血液内科 氏名 住 昌彦
研究期間	(西暦) 2018年1月 ～ 2022年3月
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>再生不良性貧血は骨髄の中にある血液の種となる細胞(造血幹細胞)が、Tリンパ球によって攻撃されてしまうために、血液細胞が作られなくなる病気(造血不全の一つ)です。再生不良性貧血では、発作性夜間血色素尿症(PNH)の患者さんで見られる PNH 型血球がしばしば検出されます。この血球があれば、その患者さんの造血不全は免疫的な異常による良性の疾患であると判断することができます。</p> <p>化学療法や放射線治療を受けたことのある患者さんで持続的な血球減少がみられた場合、通常は骨髄異形成症候群が疑われますが、これまでの研究により、このようながん治療歴のある血球減少患者さんの中にも、PNH 型血球が検出される例があることがわかりました。このような PNH 型血球陽性患者さんは、化学療法や放射線療法の治療歴があったとしても、骨髄異形成症候群ではなく、良性の造血不全(再生不良性貧血)の可能性があり、治療法の確立につながる可能性があります。</p> <p>(研究方法)</p> <p>2011年4月から2018年3月までに当院血液内科を受診し、化学療法または放射線療法後に発症した造血不全患者さんで金沢大学に検体を送付し PNH 型血球陽性であった患者さんの、当時に検査したカルテデータを使います。</p>
試料・情報	<p>(試料・情報の項目)</p> <p>当時の行ったカルテデータを用いますので、この研究目的で新たな情報を採取することはありません。</p>
研究対象者	<p>2011年4月から2018年3月までに当院血液内科を受診した造血不全患者さんで金沢大学に検体を送付し PNH 型血球陽性であった患者さん。</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>

個人情報の保護	収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。
お問い合わせ先	〒380-8582 長野県長野市若里五丁目22番1号 長野赤十字病院 所属 <u>血液内科</u> 氏名 <u>住昌彦</u> TEL : 026-226-4131 (代表) FAX : 026-228-8439